

投稿

# 原爆禁止大会に参加して 長崎・広島・木原



原水禁広島大会は、八月四日から三日間、長崎大会は、八月八日から二日間それぞれ広島市、長崎市において開催されました。とりわけ被爆者に対する中曾根の「病は気から」なる暴言や、反戦・平和の願いを無視し、大会当日に核空母ミッドウェーが長崎に入港するという暴挙に、反動中曾根の軍事大国化にむけた並々ならぬ姿勢を見ることができました。動労千葉からは、広島大会に二名、長崎大会に一名が代表参加しましたが、広島大会に参加した成田支部A君の感想文を掲載します。

## 原爆の悲惨を思い起し、日本人の アジア侵略の責任を痛感した

8・8パイプライン粉碎集会を間近にひかえた、八月四～六日までの三日間、原水禁禁止大会に参加しました。大会は主催団体、そして様々な勢力の「真に反戦・平和をかちとるためには、こう闘うんだ」というものが感じられないピンボケしたとりくみ発言のなかで、唯一三里塚闘争こそ反戦闘争の核としてあることが鮮明に写し込まれました。特に、全体の日程のなかで、子供達の平和を願う叫びは、我々労働者に向けられていることを感じました。今、中曾根の戦争政策に屈服するならば第二次大戦前と同じように、戦争へ労働者人民を動員する社会環境をゆるし、そのなかで子供達は再び三たび、アジア人民に銃を向けるために、徹底的に教育されるということです。我々が今、三里塚を基軸に決起することの歴史的位置を確認しました。また、被爆者の多くは、原爆投下の一瞬で一生を目茶苦茶にされた苦しさ悲しさの生き様を語りました。戦争、原爆の悲惨さを思い起こすとき、労働者・人民が支配に屈服し、アジア侵略を行ったことに対して真剣に考え、反省しな

ればならない。アジア人民へつぐなう道が日本労働者人民による日本帝国主義支配をうち倒さない限り、いかなる道もあり得ないと思います。こういふ立場を全労働者のものとするとき、必ず戦争はなくすことができると強く感じ、今後も私自身そのために反戦闘争を闘っていく決意です。こうした我々の労働者としてまったく正しい立場、闘い方を二日目の八月五日に行われた「核基地、巡航核ミサイルの配備」という運動分科会で田中青年部長が発言したあとで、全く許せないことに動労革マルの座長・那須は、「セクト的運動にひきいれるような発言は認めない」と敵対してきました。しかしそのことは、逆に動労「本部」革マル打倒、一掃なしに反戦闘争の勝利はないことをはっきりさせたといえます。

三日目の八月六日被爆三八周年を迎えた祈念式典にきた戦争政策をおしすすめる反動中曾根を目前に見て、被爆者を英霊としてまつりあげ、戦争へ動員するテコとして利用し、反戦反核闘争を解体するといふ我々労働者人民をなめきつた大反動攻撃であると思えました。必ず三里塚反戦闘争の大爆発で中曾根打倒をかちとることをかたく誓い、広島を後にしました。成田支部・A生

全国の住民闘争の先駆者として砂川闘争を指導し、勝利をかちとり、三里塚闘争との連帯と動労千葉の闘いの正義性を支持し続けて来た宮岡政雄氏が亡くなって一年、その遺徳をしのぶ集会在、八月七日、十七時から砂川公民館で開催され、動労千葉からは関川委員長が出席して闘う決意を明らかにしました。

集会上に先立つて宮岡氏の自宅では親族の方々や現地反対同盟、支援の人々によって新盆の供養が営まれ、その後集会に移りました。

冒頭、宮岡さんのめいぶくを祈って全員で黙とうをささげ、砂川基地反対同盟の仲間がそれぞれ自己紹介を行い、宮岡さんの意志をうけついで跡地利用の公正化のために闘ってゆく決意を述べ、続いて、かけつけた、三里塚芝山連合空港反対同盟の小川嘉吉さん、市東東市さん、婦人行動隊の



## 反基地・住民闘争の先駆者 砂川基地拡張反対同盟 故宮岡政雄氏の 1周年忌ひらかれる(8/7)

島村さんからそれぞれあいさつがされました。次に、動労千葉の関川委員長からは、宮岡さんの意志をうけつぎ、その指導を活かした運動を続けてゆく、とりわけ明日の八月八日のパイプライン供用開始にむけては、その供用を粉碎する集会の開催と、本当のパイプライン粉碎は、三里塚の敷地内農民と共に闘い、二期工事をさせない、そして空港廃港に追い込むことこそこの闘いの真の勝利である。そのためにも明日の8・8集会への全勢力の結集を呼びかけました。宮岡さんの御家族の方からも、故人の闘いにかけた情熱と亡くなってからもこれ程多くの人達がそれぞれの闘いの場で活躍されていることを目のあたりに見て非常に心強いとのあいさつがされ、全参加者は宮岡さんの志をうけついで闘うことを誓って閉会しました。